

わが家のアイドル



6丁目にお住まいの
菊池 直樹さん・真美さんの

長男 然くん (2歳10か月)

然です！
ちょっと泣き虫だけど、毎日元気いっぱい！
動物が大好きで、ライオンみたいな
強い男の子になりたいんだ♪



下田市はあいさつ運動実践中

あいさつに みんなのえがおが あふれてる



下田市内の指定文化財

その52

市指定無形民俗文化財

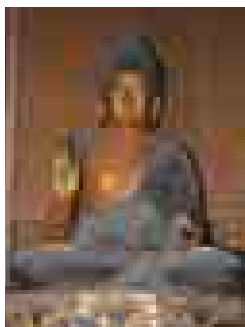
観音寺

薬師如来坐像

所在地 須崎 観音寺

指定日 昭和56年8月7日

観音寺には2体の平安仏があり、市の文化財に指定されています。今回はそのうち、薬師如来坐像をご紹介します。



観音寺薬師如来坐像

薬師如来とは

薬師如来は、東方、瑠璃色に輝く淨瑠璃世界に住むとされる仏です。経典によると、薬師如来は十二の大願を立てたといひ、第七願に「病を除き安楽を与える」とあるため、病氣平癒の仏とされています。

姿の特徴

観音寺薬師如来坐像は像高78・1cm。頭髪はタニシのような巻き毛（螺髪）で、頭上に肉の盛り上がり（肉髻）があり、これは如来像に共通する

特徴です。一方、左掌には薬壺を持っていますが、これも薬師如来の特徴で、薬壺の中にはどのような病をも癒す霊薬が入っているそうです。

仏像の構造

観音寺薬師如来坐像は、頭から胴体、両手の肘までを一木から造る一木造。材の干割れを防ぐための内刳は施されていません。この本体に、組んだ両脚部分と肘から先の両腕、さらに両手首先を別材で造って取り付けています。

「手足を別に造っているのに一木造なのか」と不思議に思われる方も多いでしょうが、学問的には頭と胴体が一体であれば、一木造と言います。

制作年代

一木造は平安前期に多い古風な造り方です。内刳がないのも古風で、胸や腹に厚みがあり、量感にあふれた堂々とした姿も、平安前期の仏像の特徴です。

一方、平安前期の仏像は仏の超越的な力を示す厳しい表情が特徴ですが、本像の顔は穏やか。これは平安後期の特

徴です。さらに胸や肩には浅く細かい衣文が見られ、これも時代が下る特徴です。



穏やかな表情

以上の点から、観音寺像は、平安前期の遺風を継ぎながらも、平安後期の和様を受けつつある時代、10世紀末から11世紀初めの間に制作されたものと考えられます。

本像は河津町繩地から移されたともいい、伝来は不明です。しかしいずれにせよ10世紀まで遡り得る仏像は、下田市内では本像と、宇土金・向陽寺阿弥陀如来坐像（上原仏教美術館寄託）があるのみで、本像は市内最古の仏像として貴重な文化財です。

※本像は秘仏であり、通常は公開していません。
（市文化財保護審議委員田島）
アクセス 下田駅より須崎行きバスで15分、終点・須崎バス停下車
問合せ先
教育委員会生涯学習課

☎ 25055



「広報しもだ」は再生紙を使用しています